

# 野の花館だより

2005/春号 / No.35

桃の花の季節となりました。地べたにはほとけのざ・おおいぬふぐり・ナズナが春いっぱい陽気を感じさせます。宮崎の春は足早にきているようです。

今年度もあとわずか、2004年度最後の野の花館だよりをお届けします。

高鍋発・子育て情報誌「野の花」ができました。町内に無料配布で喜ばれています。本紙とともにお送りいたしますので、ごらん頂き、ご感想などいただければありがたいです。

子ども達をみてくれている、プレイリ-ダ-のお姉さんたちの卒業が近づきお別れ会が今週末に予定されています。独立行政法人福祉医療機構助成の子育て支援事業は2月で終わりますが、報告書作りが3月いっぱいばかりそうです。新年度は平日のみの託児を野の花館の事業として続けます。

4月23・24日には第11回野の花館まつりの開催です。地元の子供たちの参加を願って、身近に活動中の方々にお願いし、人形劇祭りとなりました。前日には、春を食べる会も予定しています。この機会に遠方のかたがたもぜひ1度、お出かけください。

## 第11回 野の花館まつり

春です！今年も野の花館がおもしろい！

4月23日(土) 17:00 ~ 18:30 : 春を食べる会

..... すぎな、よもぎ、おどろこ草、々 .....

天ぷらや白和えがおいしい！春の香りと味を楽しみます

野の花定食(たんぽぽ券 1枚が必要です) ..... 60食で締め切りです

前日(4/22)までに申し込んでください



4月24日(日)10:00~15:00 人形劇祭り

野の花バザー \*\*\*\*\* ワークショップ \*\*\*\*\* 紙芝居 \*\*\*\*\*

よみかせ \*\*\*\*\* 人形劇 \*\*\*\*\* (参加者募集中)



野の花館まつり協力券発売中!!

さくら券 ¥500円 /大人の参加券です

たんぽぽ券 ¥1,000円 /春を食べる会の参加券

子供に夢を心ときめく出会いを！！

おとうさん！おかあさん！いっしょにつくりませんか？

# H16 年度WAM助成事業

## WAM助成・野の花館子育て支援事業

野の花館の自然と歴史を生かして、児童虐待防止と地域の子育てネットワークの強化を目的に次の活動を実施しました。

### 親育ち子育て教室の開催（全30回）工作教室・人形劇ほか・染色教室など。

#### 第21回 染色教室



今回午前と午後、二回行いました。午前はタマネギ染めと茜染め、午後はタマネギ染めとコーヒー染めをしました。素材には、絹のハンカチを使いました。野の花館ならではの「野外で染める」ということ。まずかまどに火をおこすことから始めなければなりません。火の番は、則松さんにやっていただいて、こちらは染めに専念させていただきました。

タマネギの皮染めは、染め物の入門書にはよく紹介されていますが、実は私は普段使っていない染料なので、どんな色が出るのか心配でした。ところが、見事オレンジ系の鮮やかな茶色が染まりました。参加してくれた皆さんも驚いてくれましたが、私も実は新発見でした。

茜は、一度使った物の謂わば「出洩らし」だったのですが、淡いピンク色に染まり、天然の色から澄んだ鮮やかな色が出ることに、驚いてもらえたと思います。

午後に染めたコーヒーは、薄い茶色に染まりました。ちょっと地味なので、子どもたちにはあまり嬉しい色ではなかったようですが、逆に大人には落ち着いた色で好評でした。は入門編として身近にある素材で染めることにしましたが、今度は野の花館の庭の草木で染めてみたいと思っています。 伊藤

#### 第28回 松井幹夫講演会「子どもが算数好きになるとき」2月27日宮日紙より（別添参加者感想文参照）



染色や演劇などまだまだやりたいと希望があります。次年度でも機会を捉えて実施したいと思っています。

## 子育て情報誌の作成配布・3,000部

宮日紙で紹介されました。

**高橋** 高橋町の特定非営利活動法人(NPO法人)「野の花館」(永野真代表理事)は、子育て情報誌「野の花」を千部作製した。子育て中の母親らが集めた必要で役立つ情報が満載されており、町内の6歳以下の子どもがいる家庭に無料配布している。費用に便利なA5判ハインタイプで三十六ページ。町内の行政関係の届け出や申請のほか、町健康センターの各種講座、育児サークル、図書館、公園・レジャー施設、病院、スーパーなど幅広く紹介。子育て支援は、行政や民間の保育園や児童館の各支援センターの情報を細かく提供するなど母親の視点が生かされている。子どもたちが描いたイラストを雑誌に使い、ほのぼのとした内容となっている。

町外から転入した人から「町内の育児情報が少ない」との声から始まった。独立行政法人福祉医療機構(子育て支援基金)の助成を受け、高橋市で発刊された情報誌を参考に四人が取材、編集した。

野の花館の副松和康事務局長は「育児を自分だけの責任ととらえず、子どもと一緒にならば、情報誌を通じて地域に根ざした子育て支援のネットワークを築きたい」と話している。情報誌の希望者は野の花館☎0903(23)0001。

**子育て情報満載**  
野の花館が支援誌作製



野の花館が作製した子育て情報誌「野の花」

## 支えあう子育て支援(全10回)

毎月第1土曜 10:00 から 15:00 まで乳幼児も預かり、お母さんの自由時間を作るお手伝いをしました。



お母さんの感想をご紹介します。

この活動が始まったばかりの頃、野の花館でお留守番することがとても不安そうだった珠代も私に”帰れ”と押しつける。みんなにかわいがってもらい、私と遊ぶよりたぶん楽しいのだろう。私のほうも勝手知った野の花館に子どもたちがいると思えば安心して用事をする事ができる。…夫と長女の3人で昼食をとりながら、こんな組み合わせは野の花館の子育て支援がなかったら実現しないね…と笑った。  
ありがたい、ありがたい…の1年だった。

大山

# 2004年度 野の花館 ハレノ日(舞)

## 春

野の花館まつり 4/3

▼ 十次映画ロケ 4/11



▶ セタまつり 7/7



◀ 映画ロケ 5/1



ルピナスパーク夏休みの終りの

▲ 白花たんぼ



◀ もちつき 12/28



◀ 染色教室 12/11

## 冬

◀ 豆まき 2/3



▶ 冬の花  
山茶花とハツ手



# (舞台公演)とケノ日(子どもの居場所)

▼ 映画会「対馬丸上映」7/16



# 夏



▼ わらを天井裏に上げる  
中学生ボランティア 8/19



▲ 夏の終わりの目 8/31



▲ さつまいも苗植え 6/5

# 秋

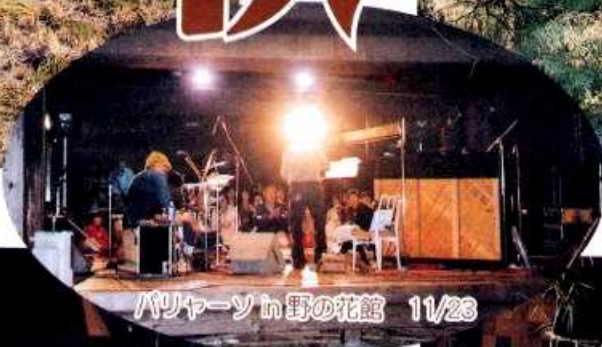


▲ 稲刈り



▲ 台風につめ痕

▼ いろいろひらき



パワーツ in 野の花館 11/28



◀ 子どもの夕べ  
2004. 11/3  
バングラデシュ  
ネパール  
中国  
カンボジアの  
人々と交流



◀ 染色教室 2/1

## 育児だより

\* ちなぼん日記 \* 金丸 智子

先日 千夏に眼鏡をぶっこわされてしまった、右側のつらは根本からポッキリ、2ヶ月前に曲げられて、それでも何とかもたせていたんだけど、とうとう、

まあ、うっかり居眠りした私が悪いのよ、さわってみたかったんだよね、仕方ない、

1才10ヶ月になろうとしているこの頃、日々成長する姿はとてもおもしろい、衣類の着脱はかなりできる様になり、音楽がかかると踊りだす、先日はおはしでめんを上手く口に運んでいた、やっぱり競い合う兄弟がいると意欲も違うのね、食欲は三人の中では一番あって、健康そのもの、あまり公園に行かない母のせいで外遊びはもっぱら庭だけど、それでも楽しそうに砂いじりをしている、

このまま元気に大きくなってね、春には、おねえちゃんになるんだよ、よろしく!!

最近の千夏のお気に入りにはTBC、声をかけると、左右の手をL字にする、おそろべしCMの力!



\* 九州新幹線の巻 \* 伊藤 美穂子

4月からは夏勢は年長さんだ。私も母親歴5年目を奮闘中。もしも夏勢がいなければ絶対に行くはずのなかった学校や病院に毎日のように行き、いろいろな方にお世話になっている。

ところで、2月23日は、年に一度の福岡子ども病院の検診の日だった。夏勢がまだとても小さくて体調のよくなかったときは、時間のかからない飛行機で行っていた。ちょっとよくなってきてからは、高速道路を使って車で。・・・今回はなんと電車で!! 一泊二食付きJR往復九州新幹線つばめ一周年特別宿泊パック旅行二万円というのがあったので、それで行ってみた。片道約5時間、3回乗り換えの旅はちょっときつかったが、乗り物好きの夏勢には楽しかったようだ。新幹線に乗っている時間は40分ぐらいしかなかったけど、自由席が空いていたので、4席向かい合わせにして楽しく過ごせた。

テレビで紹介されていたとおり、窓のブラインドはすだれだし、座席もテーブルも木製でゆったりしていて、すごいすごい連続だった。宿泊したホテルの中に、熱帯植物がたくさん植えてあり、夏勢はその中を歩き回ったり、エスカレーターで上までのぼって下で待っているお父さんを観察したり、本当に楽しそうだった。

> 今までは、福岡イコール病院のイメージだったのが、少し変わったかなと思う。

\* たまちゃんのまき \* 大山 磨佐恵

珠代はビデオが大好き。いつも見たがるのであの手、この手をつかってビデオから気をそらす。一番の手は散歩。さすがのビデオも外遊びにはかなわない。

ところが、私がインフルエンザでダウンしてビデオ見放題の日がやってきた。さぞ喜んでいると思いきや、すぐにあきておちつかない。「見るな!」と言われると見たいが「見る!」と言われても見ない事がわかった。な~んだ!

みんな元気になったから、外に遊びに出かけようと思う。

\* ホナミと野の花館 \* 山下 久美子

私たち親子は鹿児島県指宿市に住んでいます。高鍋に実家があるのでもうすぐ3歳になる子ども「ホナミ」をつれて帰るたびに野の花館の行事に関わっています。ホナミにとっては「高鍋への帰省=野の花館で遊ぶこと」のようです。行事がなくても放課後の子どもたち・大学生のお姉さんたちに会うのが楽しみではじめは恥かしそうにしても「ホナミちゃん!!」と声をかけられるとうれしくて後をついてまわっています。

うれしいのは、野の花館では「お母さんは、あっち行って~!?!」と自分はもう小学生のお姉ちゃんの仲間きどりで、私をつきはなしてくるのです。こんなホナミの姿を目の当りにすると、子供同士の引力はすごいなあ!大人が入れない世界も大事なのかなあ-。ふと思ったりしました。

鹿児島での私たち親子の生活はいわゆる母子密着で、近所に小さい子どもほとんどおらず、こんな環境でいいのかなあ-!?!とってしまう。時々発するホナミの高鍋弁をききながら、「なっちゃん・ひろしくん・まあくんあそんでくれてありがとう!」と思っているのです。

# バンクラから

長い間バンクラからの記事をお送りいただいた、川原さんが宮崎に帰られ、先日の宮日紙に次の記事を載せられました。皆さんにご紹介したく、掲載いたします。

## 戦後60年の論

私は二十八歳のとき、青井氏の人生を送り、上野臨時遊園地に落ちた。そんな私を生きとめてくれたのが、ヒメ赤坂のむらじ土田久(海子)だった。

私は、終戦から二年七月月夜に生まれた。「混沌の世代」である。育ったのは北九州工業地帯の片陽で、七色の煙たなびく空の下、三向ハースやたすけ橋や街灯りをくまなく眺めた。今のよきに過ぎた女体官能がない代わり、さわやかな顔がある。ぼくと、軟らかい土の質感の嗜好があった。無心に遊んだ友だちから、私は受けたたきをもちて進路が違っていった。

小学校の担任が、華英女学校付属中学への進学を勧めたとき、私は、その意味が分かっていなかった。その中学位で入学したとき、クラスで四割ほどが姓

### 上昇階段を降りよ

矢張り大学に入り、希望した新聞社の記者になった。上昇階段を上りながら、意識の中で、予備校の時と同じような路地へ引き戻す力が働いていた。初任地、その中学が、北九州の福岡で記者三年目、州の上流階級の手紙をまとめたエリート校だった。そこに自分の意識をなすことをあてがう。奥つけたのである。新聞記者をやめるまで

矢張り大学に入り、希望した新聞社の記者になった。上昇階段を上りながら、意識の中で、予備校の時と同じような路地へ引き戻す力が働いていた。初任地、その中学が、北九州の福岡で記者三年目、州の上流階級の手紙をまとめたエリート校だった。そこに自分の意識をなすことをあてがう。奥つけたのである。新聞記者をやめるまで

# 「大国」入り必要ない

川原 一之さん



1947年生まれ。新聞記者として十数年経過後、読者の支援活動に参加。アジア配(株)兼ネットワーク事務局長。宮崎市。



で、私の歩みは戦後日本と重なっていた。その頃の島根が広がって、互いに助けあうようになっていた。岸田政権に入り、上野臨時遊園地へ引き戻す力が働いていた。初任地、その中学が、北九州の福岡で記者三年目、州の上流階級の手紙をまとめたエリート校だった。そこに自分の意識をなすことをあてがう。奥つけたのである。新聞記者をやめるまで



「文化」文化 山岳社前で晩期の祭り。 奥者と支援者は降り込みの場(い)のちの広瀬一の橋脚を築き、金におぼれた日本人に、人々のつながりや山の自然の美しさなど、命を懸け

保衛責任を重んじ入りした。政治大国へ。私は愛国対策に協力するため、バンクラで三平方の活動の方が高かったのだ。

「月一回掲載」

戦後のスケッチ 十数年経過後東京総行動に参加し、加賀企業・住友会館の社長と交渉する演説。1984年3月30日、東京

これまでのご寄稿厚く感謝いたします。

## 一年間を通して 竹田 恵理

私は去年の四月に境美穂先輩に誘われ、学童保育に興味があり野の花館に来ました。最初は「このお姉ちゃん誰？」でしたが半年以上かけて顔を、一年かけて名前を覚えてもらいました。けれど、私の方が夏休み明けに声まで変わった玄貴君に戸惑い、奈津美ちゃんと茜ちゃんを混同してしまい反省し、子どもたちの成長の早さに驚きました。

週末のイベントではバングラディッシュやその他のいろいろな所からいらっしゃった方々のお話や、いろいろ開きの際に神主さんが話された神や火の神様のお話は心に残りました。

野の花館に来て一番(思い)知ったのは母の苦勞です。半分も知った訳ではないけれど、子どもを丸一日抱き続けた時、子どもが泣いたり喧嘩したり、お片付けをしてくれない時自分は甘やかされたと思ひ、学校では学べない事を学ばせてもらいました。これからももっとがんばりたいと思ひます。そして伊藤美津子先輩や田口万里子先輩の様に上手に子どもたちと付き合えるようになりたいです。

(伊藤さん! 田口さん! 卒業・就職おめでとう! お世話になりました! 広島・千葉がそれぞれの再出発の地です。)

### 事務局日誌より

- 12/4(土) 第8回支えあう子育て支援活動
- 11(土) 第21・22回親育ち子育て教室・染色教室 10:00~15:00
- 17(金) 第8回情報誌編集会議
- 25(土) 第23・24回親育ち子育て教室・劇あそび 10:00~15:00、クリスマス会、12月定例会
- 28(火) もちつき
- 1/8(土) 第9回支えあう子育て支援活動
- 15(土) 第25回親育ち子育て教室・工作教室 タコづくり、1月定例会
- 22(土) 第26・27回親育ち子育て教室お正月遊び大会(10:00~15:00)
- 29(土) 第9回情報誌編集会議・完成配布
- 2/5(土) 第10回支えあう子育て支援活動
- 10(木) 2月定例会
- 19(土) 第10回情報誌編集会議・送付作業
- 20(日) 第28回親育ち子育て教室・松井幹夫さん講演会「子どもが算数好きになるとき」
- 26(土) 第29回親育ち子育て教室・パントマイム体験講座 第30回親育ち子育て教室人形劇公演



藪椿もまっさか!

### 野の花館への会費納入、御寄附感謝します!

岩切よし子、古屋恵子、柳田克敏・留美子、児玉美佐子、中村和子、仲嶺盛文、黒木啓純、中島千津子、高山修二、岡山 勇、黒岩共一、飯田悦子、山口郁代、長嶺昇子、共同保育園どろんこ、曾我参作・恭子、沢田初枝、松島千衣子、續木 力、まついのりこ、神野香久子、永崎 翠、則松和恵、境 美穂、伊藤美津子、田口万里子、木内里美、竹田恵理、桜井喜美江、永野欣子、安芸逸郎、二階堂真理子、隈元三枝子、永山由美好、金子信吾、松村岳朗、則松節男、黒木淑子、間 妙子、日野原義文、吉川昌芳、去川笙子、中武真理己、菊池和恵、六反園あい子、くげぬま療院、藤 あけみ、神田香織

2004年度分会費、寄附金、2005年度分会費をよせてくださったみなさまです。[順不同、敬称は省略させていただきました]



満開の梅

ご意見ご感想ご質問などお寄せください。  
宛先; 特定非営利活動法人 野の花館  
〒884-0002 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 2664  
phone & fax;0983-23-0701  
e-mail; nonohanakanjp@ybb.ne.jp  
URL:ht tp://nonohanakan.com



〈別添:松井幹夫講演会感想文〉

松井幹夫さん講演会 [子どもが算数好きになるとき] 感想文

- \*くり上がり、くりさがりの計算を教える時に、5のかたまりですという事に気づいてなかったので指計算からの脱出に時間がかかりました、もう少し早く聴いていれば苦労が半分ですんだかも、1、2年生のいる方々は今日のお話はすばらしいプレゼントだったでしょう、学校の先生方もこれなら良かったのに！ 畠中恵子
- \*5のまとまりのお話など、とても興味深く聞かせて頂きました。自分の子供はいちばん下が4年生なので、もう少し早くお聞きしたかったです。続きのお話を聞く機会がありましたら、またぜひ参加したいと思いました。ありがとうございました。(3人の子供達のうち、いちばん下の子がタイルのプリントをたくさん持って帰ってました。) 押川幸子
- \*小学校の1年の時、こんな算数を教えてくれる大人に出会えていれば人生が違ったかも…。四月から小学校1年生の娘を抱える母として、勉強すべきことがたくさんある…と再認識しました。久保田 慈
- \*私も同じように小学生の算数にかかわっている者ですが、とてもわかりやすくて忘れがちなところをていねいに教えていただきました。ありがとうございました。
- \*小学校1年の子供がおりますが、0ゼロに対する理解で苦労しました。今日の話を書いてやっぱり“0”だと思いました。本当に続きの話をききたいです。海士野友美
- \*タイル方式の計算で5以外の7の時、2の数をでっぱり分と云う言葉はいいなあーと思いました。10のお部屋、1のお部屋にはっきり分けて位どりをしっかり覚えさせる事も大切だと思います。今日は本当にありがとうございました。前田
- \*初めて算数の勉強会に参加しました。今日、算数の原点となる部分を勉強することができ、数学を専門に子ども達に教えている立場の私にとって貴重な時間となりました。自分の指導の浅さ(知識の浅い状態で子ども達と向きあっている)を感じました。またこのような機会があったらぜひ参加したいです。ありがとうございました。
- \*ちょうど今回のお話で何うことが出来、私の育った頃のなつかしい雰囲気と共に講師のおだやかなご講演を拝聴することができて有難く存じました。幼児を預かっている毎日ですので、少しずつ時間をかけて子ども達の理解力につなげていきたいと思いました。山田敦子
- \*初めての参加でしたが、自分のために勉強になりました。ありがとうございました。まついさんの絵が好きで、初めビックリしました。Phoop
- \*もっと続きを聴きたかったです。小4、5、6～中学生と子供がもっともっと算数好きになってくれるといいと思っています。ぜひ、第2回めの時もお教え下さい。堀之内和代
- \*さんすうだいすきばあさんになるためには、と思って参加。どの位からやっていけばいいかなと思いながら聞きました。「ことば」も「かず」もくりで覚えていくと良いのだとよくわかりました。峰 瑞江
- \*算数教育への情熱に感動しました。算数…数を具象化できるよう、言葉にして理解できるよう工夫された教材や言葉かけ、多くの教師(先生方)に聞いて(学んで)いただきたいと思います。子供に筆を持たせる待つ姿勢で一緒に学んでいきたいです。石川智恵美
- \*新聞でこの講演会を知り参加させていただきました。今日の講演を聞き、教科書をそのまま指導書通りに子どもたちに教えることのおそろしさを知りました。これから、暗記させるやり方ではなく、何でその答えが出るのかを大切に授業を目指していきたいです。ありがとうございました。松濱 愛
- \*そろばん塾をしており、娘が高鍋の方へ就職した事もあり、新聞を見てたまたま記事を見つけ、参加させて頂きました。子供によっては同じ学年でもさまざまに教え方に苦労しています。今日のお話を聞いてなんとなくできそうな思いとなりました。先生の言われた事を実行してやってみたいと思います。大島ひとみ
- \*何気なく感じてた事でしたが、基本が大切な事を改めて感じました。大島智美